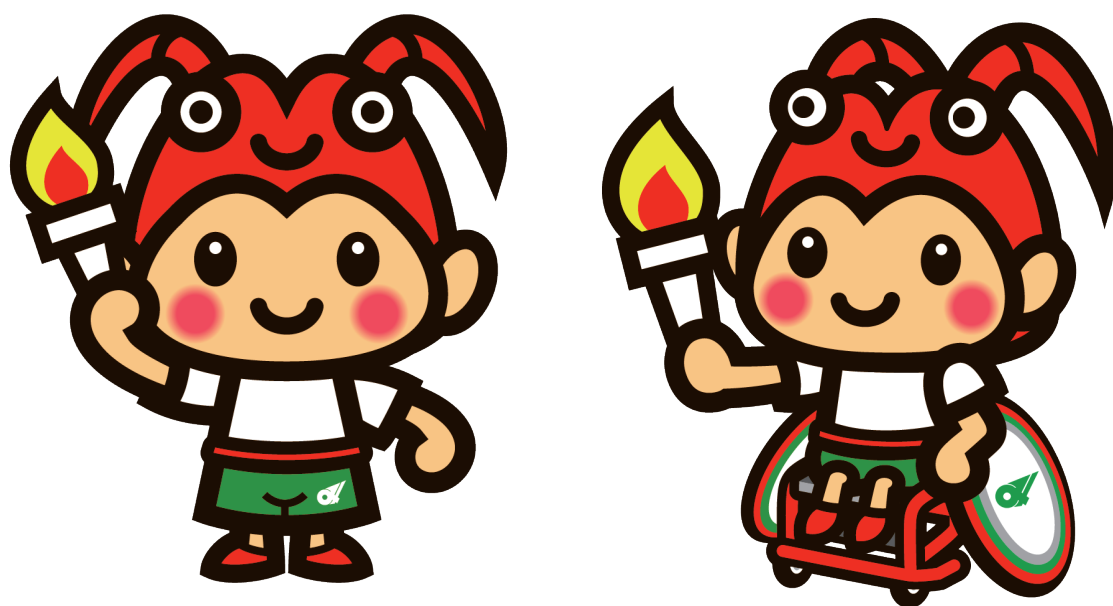


三重県競技力向上対策本部

第12回本部会議



令和6年6月28日（金）

県庁講堂

三重県競技力向上対策本部 第12回本部会議 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第12回本部会議 式次第	P	3
○ 報 告 事 項		
(報告事項1) 委員及び役員の変更	P	7
(報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過	P	8
(報告事項3) 第78回国民スポーツ大会冬季大会三重県選手団報告	P	12
(報告事項4) 令和5年度補正予算(専決処分)	P	14
(報告事項5) 三重県競技力向上対策本部第20回及び第21回競技力向上対策委員会概要	P	15
(報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第21回競技力向上対策委員会決定事項	P	21
(報告事項7) 令和6年度暫定予算(専決処分)	P	54
○ 審 議 事 項		
(第1号議案) 令和5年度事業報告(案)	P	57
(第2号議案) 令和5年度収支決算(案)	P	60
(第3号議案) 令和6年度事業計画(案)	P	62
(第4号議案) 令和6年度収支予算(案)	P	64
(第5号議案) 三重県競技力向上対策本部規約改正(案)	P	65
(第6号議案) 三重県競技力向上対策本部副本部長(案)	P	66
○ そ の 他		
(参考資料) 三重県競技力向上対策本部の競技力向上に係る取組方針	P	69
(参考資料) 第3次三重県スポーツ推進計画	P	70

三重県競技力向上対策本部 第12回本部会議 式次第

令和6年6月28日（金）
県庁講堂

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

- (報告事項1) 委員及び役員の変更
- (報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過
- (報告事項3) 第78回国民スポーツ大会冬季大会三重県選手団報告
- (報告事項4) 令和5年度補正予算（専決処分）
- (報告事項5) 三重県競技力向上対策本部第20回及び第21回競技力向上対策委員会概要
- (報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第21回競技力向上対策委員会決定事項
- (報告事項7) 令和6年度暫定予算（専決処分）

4 審議事項

- (第1号議案) 令和5年度事業報告（案）
- (第2号議案) 令和5年度収支決算（案）
- (第3号議案) 令和6年度事業計画（案）
- (第4号議案) 令和6年度収支予算（案）
- (第5号議案) 三重県競技力向上対策本部規約改正（案）
- (第6号議案) 三重県競技力向上対策本部副本部長（案）

5 そ の 他

- ・参考資料 三重県競技力向上対策本部の競技力向上に係る取組方針
第3次三重県スポーツ推進計画
- ・その他

6 閉 会

報 告 事 項

委員及び役員の変更

	選出区分	所属機関・団体・役職名	新	旧
委員	県議会関係	三重県議会議長	稲垣 昭義	中森 博文
	市町関係	三重県市長会会長	鈴木 健一	前葉 泰幸
	産業・経済関係	三重県商工会連合会会長	安藤 邦晃	坂下 啓登
	学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会会長	伊藤 歳恭	向井 弘光
	学校・スポーツ 団体関係	三重県立学校長会会長	早川 巖	辻 成尚
	学校・スポーツ 団体関係	三重県小中学校長会長	林 康子	山下 隆久
監 事	県関係	三重県出納局副局長兼出納総務課長	神田 和弘	藤本 典夫

三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。

平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第6回本部会議」を開催しました。
7月18日	公益財団法人日本スポーツ協会理事会にて、2021年第76回国民体育大会の開催地として正式に決定されました。
10月23日	三重県競技力向上対策本部「第6回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第6回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第11回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成31年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第12回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第7回本部会議」を開催しました。
令和元年 10月28日	三重県競技力向上対策本部「第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第7回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月1日	三重県競技力向上対策本部「第7回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月21日	三重県競技力向上対策本部「第13回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和2年 2月20日	三重県競技力向上対策本部「第14回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月1日	三重県競技力向上対策本部「第8回本部会議」を開催しました。
令和3年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第15回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月1日	三重県競技力向上対策本部「第9回本部会議」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第16回競技力向上対策委員会」を開催しました。

令和4年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第17回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月20日	三重県競技力向上対策本部「第10回本部会議」を開催しました。
11月15日	三重県競技力向上対策本部「第18回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和5年 3月20日	三重県競技力向上対策本部「第19回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月28日	三重県競技力向上対策本部「第11回本部会議」を開催しました。
11月27日	三重県競技力向上対策本部「第20回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和6年 3月21日	三重県競技力向上対策本部「第21回競技力向上対策委員会」を開催しました。

第78回国民スポーツ大会 三重県選手団入賞一覧

個人種目

順位	競技名	種別	種目	氏名	所属 《ふるさと登録》	得点
1	スケート (スピード)	成年男子	500m	森本 拓也	(公財)三重県スポーツ協会	8点
4	スケート (スピード)	成年男子	500m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	5点
	スケート (スピード)	成年男子	1000m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	5点
	スキ (ジャイアントスラローム)	成年女子B		中澤 真緒	(公財)三重県スポーツ協会	5点

第78回国民スポーツ大会冬季大会

男女総合成績(天皇杯)順位

24位

競技得点 23.0点

得点合計(参加点含む) 53.0点

女子総合成績(皇后杯)順位

38位

競技得点 5.0点

得点合計(参加点含む) 15.0点

第78回国民スポーツ大会冬季大会 都道府県別総合成績一覧表【参考】

※ 令和6年2月24日時点

番号	都道府県	男女総合成績(天皇杯)											女子総合成績(皇后杯)								
		得点合計	順位	スケート			アイスホッケー			スキー			得点合計	順位	スケート			スキー			
				競技得点	参加得点	合計	競技得点	参加得点	合計	競技得点	参加得点	合計			競技得点	参加得点	合計	競技得点	参加得点	合計	
1	北海道	459.5	1	184	10	194	80	10	90	165.5	10	175.5	132	2	84	10	94	28	10	38	
2	青森県	180.5	5	58	10	68	45	10	55	47.5	10	57.5	105.5	4	46	10	56	39.5	10	49.5	
3	岩手県	89	16	29	10	39	0	10	10	30	10	40	42	16	21	10	31	1	10	11	
4	宮城県	57	23	10	10	20	10	10	20	7	10	17	28	23	1	10	11	7	10	17	
5	秋田県	139.5	10	6	10	16	0	10	10	103.5	10	113.5	66	8	0	10	10	46	10	56	
6	山形県	219.5	3	97	10	107	0	10	10	92.5	10	102.5	112	3	70	10	80	22	10	32	
7	福島県	35	28	3	10	13	0	10	10	2	10	12	25	24	3	10	13	2	10	12	
8	茨城県	33	30	3	10	13	0	10	10	0	10	10	23	27	3	10	13	0	10	10	
9	栃木県	92	15	20	10	30	30	10	40	12	10	22	41	17	9	10	19	12	10	22	
10	群馬県	147	9	97	10	107	0	10	10	20	10	30	45	14	24	10	34	1	10	11	
11	埼玉県	150	8	67	10	77	50	10	60	3	10	13	59	10	39	10	49	0	10	10	
12	千葉県	46	25	16	10	26	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
13	東京都	181	4	88	10	98	60	10	70	3	10	13	68	7	45	10	55	3	10	13	
14	神奈川県	89	16	37	10	47	20	10	30	2	10	12	38	19	18	10	28	0	10	10	
15	山梨県	84	19	50	10	60	0	10	10	4	10	14	34	21	14	10	24	0	10	10	
16	新潟県	119	12	0	10	10	0	10	10	89	10	99	39	18	0	10	10	19	10	29	
17	長野県	382.5	2	189	10	199	30	10	40	133.5	10	143.5	142	1	86	10	96	36	10	46	
18	富山県	88	18	17	10	27	0	10	10	41	10	51	43	15	17	10	27	6	10	16	
19	石川県	35	28	0	10	10	0	10	10	5	10	15	24	26	0	10	10	4	10	14	
20	福井県	38	27	0	10	10	0	10	10	8	10	18	10	39	0	0	0	0	10	10	
21	静岡県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
22	愛知県	158	6	120	10	130	5	10	15	3	10	13	74	6	54	10	64	0	10	10	
23	三重県	53	24	18	10	28	0	10	10	5	10	15	15	38	0	0	0	5	10	15	
24	岐阜県	82.5	20	27	10	37	0	10	10	25.5	10	35.5	28.5	22	7	10	17	1.5	10	11.5	
25	滋賀県	76	22	30	10	40	0	10	10	16	10	26	49	12	16	10	26	13	10	23	
26	京都府	78	21	48	10	58	0	10	10	0	10	10	50	11	30	10	40	0	10	10	
27	大阪府	124	11	64	10	74	30	10	40	0	10	10	25	24	5	10	15	0	10	10	
28	兵庫県	154	7	119	10	129	0	10	10	5	10	15	101	5	76	10	86	5	10	15	
29	奈良県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
30	和歌山県	20	45	0	0	0	0	10	10	0	10	10	10	39	0	0	0	0	10	10	
31	鳥取県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
32	島根県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
33	岡山県	93	14	59	10	69	0	10	10	4	10	14	46	13	26	10	36	0	10	10	
34	広島県	31	31	0	10	10	0	10	10	1	10	11	21	28	0	10	10	1	10	11	
35	山口県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	10	39	0	0	0	0	10	10	
36	香川県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
37	徳島県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	10	39	0	0	0	0	10	10	
38	愛媛県	46	25	16	10	26	0	10	10	0	10	10	35	20	15	10	25	0	10	10	
39	高知県	20	45	0	0	0	0	10	10	0	10	10	0		0	0	0	0	0	0	
40	福岡県	95	13	65	10	75	0	10	10	0	10	10	60	9	40	10	50	0	10	10	
41	佐賀県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
42	長崎県	20	45	0	0	0	0	10	10	0	10	10	0		0	0	0	0	0	0	
43	熊本県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
44	大分県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	10	39	0	0	0	0	10	10	
45	宮崎県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	20	29	0	10	10	0	10	10	
46	鹿児島県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	10	39	0	0	0	0	10	10	
47	沖縄県	30	32	0	10	10	0	10	10	0	10	10	10	39	0	10	10	0	0	0	
合計		4105		1537	440	1977	360	470	830	828	470	1298	1821		749	380	1129	252	440	692	

令和5年度補正予算(専決処分)

1 収入

(単位:千円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正予算の内容	補正後予算額
負担金	341,527	0		341,527
収入合計	341,527	0		341,527

2 支出

(単位:千円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正予算の内容	補正後予算額	
事業費	チームみえジュニア育成事業	37,257	640	事業費精査による増	37,897
	高等学校運動部強化指定事業	13,154	2,055	事業費精査による増	15,209
	チームみえスーパージュニア強化指定事業	9,000			9,000
	三重県アスリートタレント発掘・育成事業	10,001	1,400	キャンプ先を国内から海外に変更したことによる事業費の増	11,401
	トップアスリート応援事業	11,000	△ 3,440	対象選手の減	7,560
	チームみえ国体選手強化事業	190,000	△ 23,083	各競技団体への強化支援費減額	166,917
	パラリンピック等選手強化指定事業	8,700			8,700
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	12,600	23,283	各チームへの強化支援費増額	35,883
	オリンピック等選手強化指定事業	2,700	1,200	強化指定選手の増	3,900
	ふるさとタレントアスリート強化指定事業	7,000			7,000
	チームみえトップ指導者養成事業	24,810			24,810
	競技団体・チームサポート事業	3,060	△ 600	指定競技団体の減	2,460
	みえのアスリート応援・発信事業	7,612	△ 3,415	事業費精査による減	4,197
	会議費	4,608	1,960	海外キャンプ先の視察に伴う事業費の増	6,568
事務局費	25			25	
支出合計	341,527	0		341,527	

三重県競技力向上対策本部 第20回競技力向上対策委員会に係る概要

令和5年11月27日(火)

プラザ洞津 末広の間

1 安定期における競技力向上に係る取組等について

【成年種別の強化について】

- ・2016年男子バレーボールチーム創設から関わってきたが、トップアスリート就職支援事業がなければ私たちのチームの強化はなかったと言い切れるぐらいの効果があったと実感している。女子バレーボールについては、競技団体・チームサポート事業でチームアドバイザーを導入できたことも大きく、効果を感じている。2016～2017年に入団した選手はほぼ引退しているが、現在も引き続き、雇用先企業でお世話になっており、各々が元Vリーガーの知見を生かして活躍している。
- ・12年後の国体に向けて、今の4歳や6歳あるいは8歳くらいの女の子をピックアップして、将来の少年女子あるいは成年女子を育てていくという計画を考えている。
- ・2016年は当社100周年の時で、何か地域の応援をしようということで、三重国体優勝を目標にメインスポンサーとして、クラブチームを応援させてもらっている。選手の入替わりはあったが、現在、9名の選手を就職支援させてもらっている。ほとんどが県外からの就職で、午前は仕事、午後は練習に励んでいる。選手自身も待遇は満足してもらっていると思う。会社としてもコストをかけるマイナス面だけではなく、社員が仕事以外に応援できるものがあり、会社としての一体感を高めることができ、また、広告宣伝効果も大きいと感じている。今後の課題としては、三重県出身の選手が三重県代表として、国スポで良い成績を残せるように、これからもチームを支援していきたいと思う。
- ・高校卒業後のUターンについて、三重県の高校生が大学卒業後に三重県へ帰ってこないという実態は、当社としても心苦しいところである。アスリートだけでなく、産業の発展のためにも、三重県の高校生がUターンしてくれることを願う。
- ・2013年の三重県競技力向上対策本部の設立、対策委員会のスタートから11年目になる。三重国スポの開催について2035年に向けて調整していくとの知事からの発言を受けて、今の対策事業は三重国体に向けてやってきたものであるから、少し見方を変えるのが大事である。アスジョブを例に挙げると、人口減少につながる事業であり、県民にその効果をアピールしていくことも大切なのではないかと思う。

【少年種別の強化について】

- ・マルチサポートの効果が大変大きく、専門家の方から直接指導を受けられる機会が継続的に続いていくというのは、他県にない本県独自の強みであると感じている。セーリング競技においての具体的な活用は2つあり、1つは世界選手権に関わるスタッフの補強、もう1つはスポーツジムでパーソナルトレーニングをさせてもらったこと、スポーツジムについては、3か月程度の短い期間であったが、初回と最終回のトレーニングでは目に見え

て成果が現れ、本年度の国体成績にもつながったと感じている。

- ・少年女子の活動にあたっては、県から強化費でサポートしていただいている。フェスティバルの参加や、合宿の開催など、様々な面でサポートしていただき、本当に感謝している。普段はトップチーム選手や、少年女子のカテゴリーに該当する年代の選手の育成に関わっているが、育成世代における指導の大切さを日頃感じている。少年から成年にどのようなつながっていくかが課題である。サッカーの原理原則を頭で理解し、体で表現できるようになることが、成年への移行において、大事であると考えている。
- ・県内の有望な選手が、いかに県内にとどまってもらえかが、三重県の少年種別の強化において大事になると考えている。高校進学に際して、トップチームの試合や練習などに参加できる体制を作ったりするなど、そのような取組が県外流出を防ぎ、三重県の競技力向上につながっていけば良いと思っている。競技団体と県内チームが中心となって、少年種別の強化を今後も進めていきたいと思うので、県からの支援も引き続きお願いしたい。
- ・成年と少年について、県からのたくさんのサポートに感謝している。女性アスリートの支援に焦点を当てると、月経の問題がある。個人差はあるが、過去に経験した場面だと、試合途中に月経が来てしまい、その後全く動けなくなってしまったことがあった。私たち指導者も含めて、もう少し月経というものに真剣に向き合い、理解していく必要があると思う。例えば、女性アスリートサポート事業の中で、月経の講習や実際に起こった時にどう対処するかなど、選手はもちろん、指導者の方に向けて何か支援していただけると勉強になるかと思う。
- ・ジュニアの強化について、中学校の部活を競技力向上に結び付けるのは難しく、地域の方にそれを任せるのも難しいと思う。そのため、競技団体が主体となって、学校で運営が難しいスポーツは、地域の選抜方式でやるなど、今後を考える必要がある。水球では高校が小中時代から高校のOBが指導をして、高校に進むシステムを構築しており、県外からも一定数進学があり、継続した強さが見込めている。

【指導者の育成について】

- ・本校では、テニスやハンドボールなど、大会の旅費補助などの強化支援を県からいただいていることが大きい。現在、国からの部活動の改革を受け、練習時間の制限や教員の働き方改革に取り組んでいる。テニスやハンドボールは活動時間が校内でも短い部活動であり、様々な制限がある中でも影響はあまり受けていない。今後も引き続き、強化を図っていきたい。
- ・学校現場で5年後の部活がどうなるかは、正直なところ、今すでに一学校だけでチームを組めないところがかかなり増えている。地域移行が言われている中で、受け皿がたくさんあれば移行も問題ないが、地方部では受け皿が少なく、スムーズにいかない現状である。中体連としては、地域移行をどんどん進めていくというよりは、地域と連携しながら、取組を進めていきたい。子どもたちが、学校でも地域でもスポーツができないという状況は避けたいと考えている。現時点では、5年後の明確な構想はないが、部活動をなくしていく

つもりはないし、地域と手を取り合って、子どもたちのスポーツの場をつくりたいと考えている。

- ・今後、色々な課題があると思うが、三重県スポーツ医・科学委員会では、医学的な面と科学的な面からサポートしている。女性アスリートのサポートは特殊な面も多く、スポーツ協会で講習会なども行っている。また、成年のコンディショニング不良については、指導者に適切な医・科学知識を指導していきたいと考えている。
- ・強化については、合宿や試合で強化するイベント型、医・科学サポートや目標設定に基づくプロジェクト型の2つがある。12年後を見据えて、3年4期に分けて、責任者をたてて強化を進めることも重要であると考えている。
- ・アジア競技大会に本部役員で帯同した際、チームジャパンの一体感醸成を目的に、選手村の中にカフェやラウンジを初めて作った。曜日ごとにTシャツの色を揃えたところ、選手に好評で、チームの一体感が生まれた。指導者養成事業では、各競技の枠を超えて一緒になって学びあうことで、交流が生まれ、チームみえの一体感が生まれると思う。
- ・アスジョブみえ通信について、受け入れ先企業にアンケートを実施して、選手が入社したことによって、プラスの面あるいはマイナスの面はあったかについて、アンケートをするとよいと思う。
- ・指導者養成を始めて、今まではイベント型が中心だったが、現在ではプロジェクト型の目標設定を皆さんがやってもらえるようになった。目標のために何をすることが明確になり、マルチサポートを活用してもらうことで、有効に効果が表れていると考えている。

2 パラアスリートの強化について

- ・パラアスリートは指導者が少なく、独自で練習するなど、競技力向上につながりづらいことも多く、大会参加の際に情報交換を行ったりしている現状である。障がいの有無にかかわらず、強化の支援をしていただけるととても嬉しく思う。
- ・ヴィアティンでも、パラスポーツに取り組もうとしたことがある。東京五輪の2年ほど前だったが、アスリートは就職したが、仕事で手一杯になってしまい、練習に時間を取れなかった。民間企業への就職支援の相談をしたことがあるが、トップアスリートの就職をサポートとなると、障がい者雇用の枠を超えるのではないかという問題があり、難しかった。

※

※民間企業では、2.3%以上の割合で障がい者を雇用する義務があり（障がい者法定雇用率：2024年より2.5%以上）、その算定は週所定労働時間（週30時間以上＝1人カウント、週20時間以上30時間未満＝0.5人カウント）をクリアしている者のみカウントされる。パラアスリートがその労働時間で就労するとなると練習や遠征、大会への参加が難しくなってしまう。

三重県競技力向上対策本部 第21回競技力向上対策委員会に係る概要

令和6年3月21日(木)

プラザ洞津 高砂の間

1 令和6年度競技力向上に係る取組等について

・四日市市では、女子ラグビーチーム、男子バスケットボールチーム、体操クラブなどが支援をしていただき、活動しているチームがたくさんある。女子ラグビーチームからは、2022年のワールドカップニュージーランドで8人の日本代表選手が選出されている。その際に、パブリックビューイングという形で応援させていただき、チームを応援しているという土壌も出来上がってきている。体操クラブにおいては、今年の世界体操選手権男子団体の金メダル、アジア大会の女子平均台で初の金メダル、男子団体の銀メダルということで、期待をしているところであり、今後のオリンピックにもつながっていくのではないかと考えている。

また、このようなトップアスリート選手が、地域の小学生たちに熱心に教えており、地域との関わりも多い。大会を四日市市で開いていただくことで、四日市市、および三重をPRすることが出来ている。観光という面では、四日市市は少し弱い部分があるため、そういったところで相乗効果をねらいたい。

・三重県を卒業した選手が戻ってくるという好循環が出来てきている。自分たちのクラブで育った選手が日本代表に選出され活躍している。このような選手をもう一度三重県に戻りたいと考えた時に、トップアスリート就職支援事業やスポーツ指導員の配置であるなど、当然自分たちでも求人を出したりしているが、プラスして三重県からも支援をいただくと子どもたちの活力になるのかなと思う。支援事業を狭めていくのではなく、より広げていくような活動をしていただくとありがたい。

・学業との両立、社会人と選手の両立が難しい問題であり、環境がそろわずに競技を引退するケースもある。そのような中で三重県の就職支援は、競技に専念できるだけでなく、引退後の雇用継続という面でも、安心して競技を続けることが出来る。雇用の安定化が競技力向上に直結する部分であるため、引き続き支援をお願いしたい。

・高等学校運動部について、学校の魅力づくりは重要な役割になる。中学生が進路を選択する際に、その学校でどのような部活動が行われているか、自身の成長にどのようにつながるのかを知ることができる貴重なものになっている。昨今、少子化も進んできており、各学校が特色ある魅力ある学校づくりを進めていく中で、高等学校運動部を強化していくことは大きな役割をもっているのかと感じている。

・鹿児島国体の15位という順位は関係者が頑張られた成果である。10位代前半にとどまったのはかなり大きく、みなさまの頑張りの成果だと考える。チームみえトップ指導者養成事業においては、指導者の横の繋がりができるなど、重要な事業になっている。立ち上げ当初から参加している指導者たちも、今後も指導者としての学びを継続するとともに、次世代の育成にも携わりたいという意思もあると聞いている。学習効果や波及効果があるという事業なんだと感じている。これからもますます指導者養成に力を入れていただき、大事にして欲しい。

・弊社では、陸上競技がクラブチームとなっており、愛知県でも各種スポーツを支援している。小中学校にスクールという形で出向いていき、地域との交流を深めるなど、スポーツの裾野を広げている。一人一人の成長に繋がるような支援を目指しており、今後も引き続き支援をしていきたい。

2 令和6年度競技力向上対策事業について

・パラリンピック等強化指定のS、A指定について、同じ顔ぶればかりでなく、他の選手も支援していただき、競技者が少ないところも支援していただきたい。

・少年女子監督として、競技力向上対策委員として参加させていただいているので、少年女子としても結果を出さないといけないと感じている。既に東海ブロックに向けて強化を進めており、少年と成年が一緒になって、強化等を出来れば選手たちにとっても、将来を考える上で重要になってくると考えている。

・中体連としては、国スポ等で活躍する場面は少ないと思っているが、子どもたちがスポーツと関わる場面も少なくなっている。中学生がスポーツに親しむ機会を中体連としてもなんとか増やしていきたいと考えている。

・中学校の部活動地域移行について、これまでのように教員が導くことが難しくなっているおりに、国も県も市も動いている状況である。今年度に部活動ガイドラインを定めており、各市町の協議会の方で方針等が出来あがっている。部活動指導員の増員など、徐々にスポーツが出来る環境を作っていきたいと考えている。

・開催県は数年間順位を維持しているが、三重県も今後が正念場になる。個人的には指導者の養成が重要になってくる。部活動の地域移行について、学校の先生の負担軽減だけでなく、競技力の向上につなげていかなければならない。医・科学について、歯科医師会でもマウスガードの作成ができる人材の育成などを行っている。コンタクトスポーツなど、怪我防止の

ためにも普及を広げていきたい。三重県のアスレティックトレーナー、スポーツドクターなどの有資格者を有効に活用していただければと思う。

・社会人のクラブチームは、選手の獲得及び活動に際しどうしても仕事と競技の両立という問題に直面する。そのため選手個人にかかる負担は大きく、また選手の社会人としてのキャリア形成の観点からも安定した職場の提供は非常に重要であると考えている。そういった中、三重県のクラブチームにおいては、県のアスジョブ制度が非常に心強く、また強化に直結しており、選手にとっても競技引退後の職場が確保されている状況は非常に安心できるものとして、評価は高いものと思っている。

また、アスジョブ制度の取り組みは、強豪大学の指導者からの信頼・評価も高く事実主力の選手としてアスジョブ制度利用の選手が本年も活躍している。

今後も是非、県内に定着しつつあるアスジョブ制度の引き続きの継続・維持をお願いしたい。

令和6年度競技力向上対策事業		
	事業名	対象
①	チームみえジュニア育成事業	ジュニア・少年選手
②	ジュニアクラブ・運動部強化指定事業	
③	高等学校運動部強化指定事業	
④	チームみえスーパージュニア強化指定事業	
⑤	三重県アスリートタレント発掘・育成事業 (スーパー☆プロジェクト)	
⑥	トップアスリート応援事業	
⑦	チームみえ国スポ選手強化事業	少年・成年 選手共通
⑧	女性アスリートサポート事業	
⑨	オリンピック等選手強化指定事業	
⑩	パラリンピック等選手強化指定事業	
⑪	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手
⑫	トップアスリート就職支援事業	
⑬	スポーツ指導員配置事業	指導者
⑭	チームみえトップ指導者養成事業	
⑮	競技用具等整備事業	環境整備

チームみえジュニア育成事業 実施方針

令和6年度当初予算【30,000千円】

1 目的

全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手（小学生・中学生）を「チームみえジュニア」として指定し、その育成・強化を目指した活動を支援するとともに、スポーツ体験会による新たなジュニア選手の発掘を支援することなどにより、長期的で持続可能な競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県スポーツ協会加盟の国民スポーツ大会の正式競技である競技団体。

3 実施内容

- (1) ジュニア選手（小学生・中学生）に対し、三重県競技力向上対策本部長が「チームみえジュニア指定証」を交付する。
- (2) 各競技団体が取り組む、「チームみえジュニア」の活動を支援するため、必要な経費（以下、「強化費」という）を配分する。
- (3) 配分については、各競技団体の強化計画等に応じて配分する。
- (4) 強化費については、チームみえジュニアの育成・強化に対して実施する強化・育成活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。
- (5) 各競技団体が実施するスポーツ体験会のチラシを作成し、県内小中学校へ配布する。

4 年間計画

4月	強化費の配分額決定
5月	チームみえジュニア決定・指定証発行
4～3月	強化活動支援
7、1月	スポーツ体験会のチラシ配布
8～3月	各競技団体によるスポーツ体験会の実施

ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 実施方針

令和6年度当初予算【4,500千円】

1 目的

今後の国民スポーツ大会等において、少年種別の中心となる選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援し、競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会の正式競技で、国民スポーツ大会の少年種別での出場と活躍に繋がる実績等を有し、今後も、将来の少年種別を担う選手の育成の拠点となることが見込まれるジュニアクラブ・運動部。

3 実施内容

- (1) 強化指定の決定については、別途定める「ジュニアクラブ・運動部強化指定事業選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、令和6年4月から令和7年3月までの単年度指定とする。
- (3) 全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|------|--------------------|
| 4月 | ジュニアクラブ・運動部強化指定の決定 |
| 4～3月 | 強化活動支援 |

ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「ジュニアクラブ・運動部強化指定事業」に係る指定ジュニアクラブ・運動部を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

選考については以下のとおりとする。

なお、選考にあたっては必要に応じて、競技団体と協議の上、決定するものとする。

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が行うものとする。

(2) 選考基準

今後も、将来の少年種別を担う選手の育成・強化の拠点となることが見込まれるジュニアクラブ・運動部で次の基準のすべてを満たすもの。

- ① 国民スポーツ大会の正式競技で、全国大会（※1）での活躍を目指し、ジュニア選手の育成・強化を担うジュニアクラブ・運動部
- ② 国民スポーツ大会（ブロック大会含）の少年種別において、三重県選手としての出場実績（※2）を有するジュニアクラブ・運動部
- ③ 全国大会（※1）での実績（※3）を有するジュニアクラブ・運動部

※1 全国大会

- ア 全国中学校体育大会
- イ ジュニアオリンピック
- ウ ア・イと同等のレベルと認められる大会

※2 出場実績

過去3年間における国民スポーツ大会への出場実績

※3 全国大会での実績

- ア 令和4年度～令和5年度の全国大会（※1）で、個人競技、団体競技を問わず8位以上の入賞実績を有する。
- イ この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

令和6年度強化指定ジュニアクラブ・運動部

	ジュニアクラブ・運動部名	競技名（種目名）
1	三重ダイビングクラブ	水泳（飛込）
2	みえA.S.C	水泳（A.S）
3	リヴィエール三重	水泳（水球）
4	Ocean Bear's	
5	三重グリーンテニスクラブ	テニス
6	宮川ローイングクラブ	ローイング
7	相好体操クラブ	体操（競技）
8	四日市メリノール学院中学校男子バスケットボール部	バスケットボール
9	四日市メリノール学院中学校女子バスケットボール部	
10	INABEレスリングアカデミー	レスリング
11	みえウエイトリフティングジュニアクラブ	ウエイトリフティング
12	松生TTC	卓球
13	21クラブ	
14	KO-WALL三重	スポーツクライミング
15	STAR WALL	
16	鈴鹿ジュニアボウリングクラブ	ボウリング

16クラブ

高等学校運動部強化指定事業 実施方針

令和6年度当初予算【13,154千円】

1 目的

国民スポーツ大会等の全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

次に該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民スポーツ大会の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」とする。）に加盟する競技専門部に所属する高等学校運動部。
- (2) 国民スポーツ大会の正式競技であり、公益財団法人三重県スポーツ協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」とする。）に所属する高等学校運動部。

3 実施内容

(1) 指定期間

- ① 指定期間は、令和4年4月から令和7年3月までの原則3年とする。
- ② 指定を受けた高等学校運動部は、3年継続して指定し、指定最終年度に、見直すこととする。
- ③ 指定期間内であっても、三重県競技力向上対策本部（以下、「対策本部」とする。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。

(2) 指定方法

対策本部は、県高体連、または県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体から推薦を受けた高等学校運動部を指定候補として、三重県教育委員

会（以下、「県教委」とする。）と協議したうえで、次のように指定する。

- ① 指定候補について、別紙推薦要領に基づいて活動状況や国スポ強化の中心となる位置づけ、全国大会において入賞が見込める運動部かを判断する。

なお、指定候補であっても、活動状況や大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと判断する場合は、指定しないことがある。

- ② 指定候補以外でも、この方針の目的に合致すると認められる高等学校運動部を県高体連及び県競技団体等と協議のうえ、指定することができる。

- ③ 強化活動の支援の配分については、指定決定後、対策本部が活動状況、令和6年の全国大会における有力選手の状況を調査したうえで令和6年4月に決定する。

(3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

4月	強化指定運動部の決定
4月～5月	指定証交付式
4月～3月	強化活動の支援

高等学校運動部強化指定事業 推薦要領

1 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民スポーツ大会の正式競技で、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」とする。）に加盟する競技専門部に所属する高等学校運動部。
- (2) 国民スポーツ大会の正式競技で、三重県スポーツ協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」とする。）に所属する高等学校運動部。

2 推薦基準

- (1) 全国大会において活躍するトップアスリートの育成に向けて、国民スポーツ大会で三重県代表チームの強化の中心となることが期待できる高等学校運動部であること。
- (2) 各競技専門部において指定する上限数は別表のとおりとする。

3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、実態として男女別々に活動している場合は男子・女子を区分し、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。

【別表】 令和6年度強化指定運動部 各競技別推薦数

	競技名	強化指定運動部(枠数)	
		男子	女子
1	陸上競技	6	
2	水泳(競泳)	1	
	水泳(飛込)	—	—
	水泳(水球)	1	
	水泳(AS)	—	—
3	サッカー	1	1
4	テニス	1	1
5	ローイング	1	1
6	ホッケー	1	1
7	ボクシング	1	
8	バレーボール	1	1
9	体操(競技)	1	1
	体操(新体操)	—	—
10	バスケットボール	1	1
11	レスリング	2	
12	セーリング	1	
13	ウエイトリフティング	3	
14	ハンドボール	1	1
15	自転車	1	
16	ソフトテニス	1	1
17	卓球	1	1
18	相撲	1	—
19	馬術	1	
20	フェンシング	1	1
21	柔道	2	1
22	ソフトボール	1	1
23	バドミントン	1	1
24	弓道	1	1
25	ライフル射撃	1	
26	剣道	1	1
27	ラグビーフットボール	1	1
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	1	
30	アーチェリー	1	
31	空手道	1	1
32	銃剣道	1	
33	クレール射撃	—	—
34	なぎなた	—	1
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	1	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	—	—
41	硬式野球	—	—

計

61

令和6年度高等学校強化指定運動部

	競技名	強化指定運動部	
		男子	女子
1	陸上競技	伊賀白鳳高等学校	四日市商業高等学校
		近畿大学工業高等専門学校	松阪商業高等学校
		皇學館高等学校	—
		四日市工業高等学校	—
2	水泳（競泳）	尾鷲高等学校	
	水泳（飛込）	—	—
	水泳（水球）	四日市中央工業高等学校	—
	水泳（AS）	—	—
3	サッカー	四日市中央工業高等学校	—
4	テニス	四日市工業高等学校	四日市商業高等学校
5	ローイング	相可高等学校	津商業高等学校
6	ホッケー	名張青峰高等学校	名張青峰高等学校
7	ボクシング	久居高等学校	
8	バレーボール	松阪工業高等学校	三重高等学校
9	体操（競技）	暁高等学校	
	体操（新体操）	—	—
10	バスケットボール	指定なし	指定なし
11	レスリング	いなべ総合学園高等学校	
		朝明高等学校	—
12	セーリング	津工業高等学校	
13	ウエイトリフティング	四日市工業高等学校	—
		四日市中央工業高等学校	—
		亀山高等学校	
14	ハンドボール	四日市工業高等学校	四日市商業高等学校
15	自転車	朝明高等学校	
16	ソフトテニス	三重高等学校	三重高等学校
17	卓球	白子高等学校	白子高等学校
18	相撲	宇治山田商業高等学校	—
19	馬術	高田高等学校	
20	フェンシング	海星高等学校	鳥羽高等学校
21	柔道	名張高等学校	名張高等学校
		四日市中央工業高等学校	—
22	ソフトボール	四日市工業高等学校	津商業高等学校
23	バドミントン	暁高等学校	皇學館高等学校
24	弓道	津工業高等学校	亀山高等学校
25	ライフル射撃	久居高等学校	
26	剣道	三重高等学校	鈴鹿高等学校
27	ラグビーフットボール	朝明高等学校	四日市メリノール学院高等学校
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	桑名西高等学校	
30	アーチェリー	四日市四郷高等学校	
31	空手道	川越高等学校	
32	銃剣道	皇學館高等学校	—
33	クレール射撃	—	—
34	なぎなた	—	稲生高等学校
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	津田学園高等学校	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	—	—
41	硬式野球	—	—

32校56部

チームみえスーパージュニア強化指定事業 実施方針

令和6年度当初予算【6,000千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会等で活躍する中・高校生選手を強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、将来、国民スポーツ大会やオリンピック等の大規模な大会で活躍が期待できるジュニア選手の育成・強化を図ることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会やオリンピックの正式競技で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学・高等学校に在籍する選手。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

三重県競技力向上対策本部は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民スポーツ大会やオリンピック等の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学・高等学校に在籍する選手を強化指定する。

(2) 指定期間

指定日から令和7年3月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。予算を超えた場合は三重県競技力向上対策本部事務局が別途協議の上、決定する。

4 年間計画

- | | |
|-----|--------------------|
| 6月 | 第1次強化指定選手の推薦・選定・決定 |
| 12月 | 第2次強化指定選手の推薦・選定・決定 |

チームみえスーパージュニア強化指定事業 推薦要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「チームみえスーパージュニア強化指定事業」に係る強化指定選手の推薦募集をするため、必要な事項を定めるものとする。

2 推薦

推薦は、三重県競技力向上対策本部が推薦要領に基づき、各競技団体等に募集を行うものとする。ただし、原則、次年度以降も競技を継続する選手を対象とする。

(1) 対象

国民スポーツ大会やオリンピックの正式競技で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学・高等学校に在籍する選手。

(2) 推薦基準

全国・国際スポーツ大会で優秀な成績を収め、今後も同様の大会において活躍が期待でき、次の基準のいずれかを満たす選手。ただし、他の強化指定事業と重複しない選手とする。

- ① 令和 5 年度または令和 6 年度に日本代表選手として中央競技団体から選抜され国際大会^{※1}に出場した、もしくは出場が内定している選手。
- ② 令和 5 年度または令和 6 年度の全国大会^{※2}において、個人で優勝を収めた選手。
- ③ この他、特に顕著な実績を収めた場合で、三重県競技力向上対策本部が別途指定した選手。

※1 国際大会

- ア： オリンピック、アジア大会、世界選手権、アジア選手権
- イ： ユース五輪、世界ジュニア・ユース大会、アジアジュニア・ユース大会
- ウ： 中央競技団体が代表を選抜するワールドツアー等
- エ： ア・イ・ウと同じレベルと認められる大会

※2 全国大会

- ア： 国民スポーツ大会、全日本選手権
- イ： 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
- ウ： 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜選手権大会
- エ： ア・イ・ウと同じレベルと認められる大会

(3) 推薦方法

- ① 各競技団体等は、「(2) 推薦基準」を満たした選手を三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。
- ② 県内に競技団体がないオリンピック正式種目は、上記「(2) 推薦基準」を満たした選手を、所属する団体（クラブチーム）等が、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

三重県アスリートタレント発掘・育成事業 実施方針
(M I Eスーパー☆プロジェクト)

令和6年度当初予算【12,841千円】

1 目的

優れた資質を有する小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民スポーツ大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップ等の国際大会において活躍することができるアスリートの輩出を目的とする。

また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図ることを目的とする。

2 対象（競技）

ラグビーフットボール競技（男女）、自転車競技（男女）の2競技。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が県関係者、市町関係者、スポーツ団体関係者、学識経験者、競技団体関係者（中央競技団体、県競技団体）、独立行政法人日本スポーツ振興センター等と連携した運営委員会を行うとともに、プログラム部会と選考部会を行う。
- (2) 運営委員会にて、事業の内容及び計画及びタレントの選考等を決定する。
- (3) プログラム部会にて、育成プログラムの内容及び計画等を決定する。
- (4) 選考部会にて、オーディションの実施及びタレントの選考原案の作成を行う。
- (5) 実施競技団体は三重県競技力向上対策本部事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

4 年間計画

- 8月 タレントの募集開始（～11月上旬）
- 11月 オーディション実施
- 12月 選考部会、プログラム部会、運営委員会
「年間事業計画の決定」「アスリートタレントの決定」
- 1月 認定証授与式、修了式
- ※週2～3回程度の専門プログラムの継続実施
- ※年20コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施

トップアスリート応援事業 実施方針

令和6年度当初予算【11,000千円】

1 目的

国民スポーツ大会を初めとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むことができるとともに、今後の国民スポーツ大会をはじめとする全国大会や本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、単身で転居をともなって三重県内の高等学校に入学し、令和5年4月に本事業で認定した選手。

3 実施内容

給付金の給付

給付金は月額制とし、令和5年4月から3年間給付する。

4 年間計画

4月 継続給付

3月 活動報告を確認

令和6年度トップアスリート応援事業に係る認定選手

No	競技名	選手名	性別	出身県	所属
1	セーリング	岡田 海洋	男	神奈川県	県立津工業高等学校
2	水球（水球）	山崎 唯	男	青森県	県立四日市中央工業高等学校
3	バスケットボール	吉田 陽香	女	福岡県	四日市メリノール学院高等学校
4	バスケットボール	岡本 悠太	男	岡山県	四日市メリノール学院高等学校
5	体操（競技）	竜田 裕奈	女	三重県	暁高等学校
6	ソフトテニス	南 龍之介	男	東京都	三重高等学校
7	剣道	酒匂 健賑	男	大阪府	三重高等学校
8	レスリング	山内 悠妃	女	神奈川県	県立白山高等学校
9	バレーボール	古賀 ひなの	女	大阪府	三重高等学校

トップアスリート応援事業 「三重県民共済基金」実施方針

1 目的

国民スポーツ大会をはじめとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むことができるとともに、今後の国民スポーツ大会をはじめとする全国大会や本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、単身で転居をともなって三重県内の高等学校に入学し、令和4年4月に本事業で認定した選手。

3 実施内容

給付金の給付

給付金の給付は、三重県民共済生活協同組合からの寄付金による「トップアスリート応援基金」を財源に実施する。各認定選手への給付金は月額制とし、令和4年4月から3年間給付する。

4 年間計画

- 4月 継続給付
- 3月 活動報告を確認

報告事項 6-6-4
 令和6年3月21日
 第21回競技力向上対策委員会決定

令和6年度トップアスリート応援事業（三重県民共済基金）に係る認定選手

No	競技名	選手名	性別	出身県	所属
1	水泳（水球）	尾上 黎真	男	兵庫県	県立四日市中央工業高等学校
2	水球（水球）	松田 弦皇	男	山形県	県立四日市中央工業高等学校
3	テニス	折坂 優羽	女	京都府	県立四日市商業高等学校
4	テニス	葛西 紗葵	女	静岡県	県立四日市商業高等学校
5	テニス	後藤 莓衣	女	静岡県	県立四日市商業高等学校
6	バスケットボール	大久保 結奈	女	滋賀県	四日市メリノール学院高等学校
7	バスケットボール	水野 桃花	女	愛知県	四日市メリノール学院高等学校
8	ソフトテニス	盛岡 昴生	男	徳島県	三重高等学校
9	ラグビーフットボール	伊藤 魁人	男	愛知県	県立朝明高等学校

チームみえ国スポ選手強化事業 実施方針

令和6年度当初予算【177,000千円】

1 目的

佐賀国スポでの天皇杯順位10位台前半を獲得するため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組むことを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県スポーツ協会加盟団体のうち、国民スポーツ大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 競技団体ヒアリングを基に、戦力、強化計画について総合的に判断し、佐賀国スポにおける競技成績の見込や強化計画等に基づき、強化費を傾斜配分し、競技団体が実施する強化活動を支援する。
- (2) 支援期間は一年間とするが、本国スポまでの強化活動を重点的に支援する。
- (3) 各競技団体は、佐賀国スポでの目標が達成できるよう、計画的・戦略的に強化活動を進めることとする。
- (4) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費とする。

4 年間計画

- | | |
|-------|--|
| 4月 | 配分額の通知、交付申請書の提出
実施事業の支援（4月～本国スポ） |
| 9～10月 | 競技成績よる強化活動の検証と滋賀国スポに向けての
強化計画の作成
実施事業の支援（本国スポ後～3月） |
| 1～2月 | 次年度の強化計画の作成 |

女性アスリートサポート事業 実施方針

令和6年度当初予算【700千円】

1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図ることを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県スポーツ協会加盟団体のうち、国民スポーツ大会の正式競技である競技団体及びその団体に所属する女性アスリート、指導者及び保護者等とする。

3 実施内容

女性アスリート、指導者及び保護者向けの研修会を開催し、女性アスリートが継続して競技に取り組むうえでの不安や悩みの解消に繋がる知識習得や意識向上を図る。

4 年間計画

5月～2月 女性アスリート、指導者、保護者向けの研修会を2回
実施予定

オリンピック等選手強化指定事業 実施方針

令和6年度当初予算【2,700千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会等で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、オリンピック及び国民スポーツ大会に向けた選手の競技力向上を推進することを目的とする。

2 対象

オリンピックや国民スポーツ大会における正式競技に取り組んでいる学生※で、オリンピックをはじめとした世界大会や、国民スポーツ大会をはじめとした国内大会で活躍が期待できる選手。

※学生

①中学生②高校生③大学生④大学院生⑤専門学校生⑥高等専門学校生⑦高等専門学校専攻科生

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

別途定める「オリンピック等選手強化指定事業 選考要領」に基づき、三重県競技力向上対策本部が強化指定する。

(2) 指定期間

令和6年4月から令和7年3月までの単年度指定とする。

追加指定は、指定日から令和7年3月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認められた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

4月	指定選手の決定
5月	指定証交付
8月	追加指定選手の決定
9月	追加指定選手の指定証交付
随時	強化活動支援

オリンピック等選手強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「オリンピック等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会で行うものとする。

(2) 選考基準

選考は、「オリンピック等選手強化指定事業 実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、次の基準のいずれかを満たすものとする。

① 継続指定枠

- ア 令和 5 年度に指定を行った選手で、令和 4 年度、令和 5 年度に開催された全日本選手権または国民体育大会において 3 位以上の成績を収めた選手。
- イ 令和 5 年度に指定を行った選手で、令和 4 年度、令和 5 年度に日本代表として中央競技団体から選抜され国際大会^{*}に出場した選手。

② 新規指定枠

本県代表選手の一員として、国民スポーツ大会において入賞が見込め、原則以下のいずれかを満たす選手とする。

- ア 令和 5 年度に開催された全日本選手権大会において優勝した選手。
- イ 令和 5 年度または令和 6 年度に日本代表として中央競技団体から選抜され国際大会に出場した選手。

※国際大会

オリンピック、アジア競技大会、世界選手権、アジア選手権、中央競技団体が代表を選抜するワールドツアー等
ただしトップカテゴリーの代表として選出された者に限る。

報告事項 6-9-3
 令和6年3月21日
 第21回競技力向上対策委員会決定

令和6年度オリンピック等選手強化指定事業に係る強化指定選手

	名前	年齢 (学年)	所属	競技名 (種目名)	指定枠
1	伊藤 京介	21 (4年)	日本大学	自転車	継続
2	小久保 真旺	21 (4年)	法政大学	フェンシング	継続
3	藤枝 乙葉	21 (4年)	愛知みずほ大学	ライフル射撃	継続
4	藤波 朱理	20 (3年)	日本体育大学	レスリング	継続
5	津村 涼太	21 (4年)	鹿屋体育大学	体操競技	新規
6	弓矢 健人	20 (3年)	日本体育大学	レスリング	新規
7	神谷 龍之介	19 (2年)	日本体育大学	レスリング	新規
8	岡村 真	18 (1年)	相好体操クラブ (四日市大学)	体操競技	新規
9	島田 綾乃	17 (3年)	鈴鹿高校	水泳競技 (A S)	新規

※年齢・学年は令和6年4月1日現在

パラリンピック等選手強化指定事業 実施方針

令和6年度当初予算【8,700千円】

1 目的

パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍を目指して強化活動に取り組んでいる本県の選手を指定し、その活動を支援することで、更なる競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

出身地・居住地・勤務地のいずれかを示す住所が本県であり、パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍が期待される選手。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

別途定める「パラリンピック等選手強化指定事業 選考要領」に基づき、三重県競技力向上対策本部が行う。

(2) 指定期間

指定については、令和6年4月から令和7年3月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で補助する。

4 年間計画

- | | |
|----|-----------|
| 4月 | 強化指定選手の決定 |
| 5月 | 指定証交付 |
| 随時 | 強化活動支援 |

パラリンピック等選手強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「パラリンピック等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局が障がい者スポーツ関係団体との協議のうえ、作成した原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が選考を行うものとする。

(2) 選考基準

選考は、「パラリンピック等選手強化指定事業 実施方針」の目的及び対象を踏まえ、パラリンピック・デフリンピックをはじめとする国際大会での活躍が期待される選手であり、かつ、それぞれの指定基準を満たすものとする。

① S 指定基準

令和 5 年度に日本パラリンピック委員会（以下、J P C）加盟競技団体から強化指定を受けた選手、または、令和 5 年度内に J P C から令和 6 年度の強化指定の内定を受けた選手。

② A 指定基準

以下のア～エのいずれかを満たす選手。

ア J P C 加盟競技団体から令和 5 年度に育成指定等^{*}を受けた選手。

イ J P C 加盟競技団体から令和 4 年度に強化指定を受けた選手。

ウ 令和 4 年度、令和 5 年度に日本代表として J P C 加盟競技団体から国際大会に選抜された選手。

エ 令和 4 年度、令和 5 年度に指定実績がある選手のうち、令和 4 年度、令和 5 年度に開催された全国大会において入賞実績がある選手。

※ 育成指定等…強化指定選手の次に上位の区分のみ対象とする。

令和6年度パラリンピック等選手強化指定事業に係る 強化指定選手

【S指定】

	名前	所属	競技（クラス）	前年度
1	稲垣 克明	住友電装株式会社	陸上競技 (T63クラス)	S指定
2	前川 楓	新日本住設株式会社	陸上競技 (T63クラス)	S指定
3	井谷 俊介	SMBC日興証券株式会社	陸上競技 (T64クラス)	A指定
4	伊藤 智也	バイエル薬品株式会社	陸上競技 (T53クラス)	A指定
5	菰方 里菜	同志社大学（学生）	テニス	S指定
6	岡田 和也	サイオネス・ヘルス・コマーシャル 株式会社	射撃	S指定

【A指定】

	名前	所属	競技（クラス）	指定
1	保田 明日美	パナソニックインダストリー 株式会社	陸上競技 (T63クラス)	A指定
2	坂倉 航季	マクセルクレハ株式会社	水泳 (S14/SB14/SM14)	S指定
3	相澤 稜翔	津田学園高等学校（学生）	水泳 (S9/SB9)	A指定
4	齋田 悟司	株式会社 シグマクシス・ホールディングス	車いすテニス	S指定
5	長谷川 勝久	県立こころの医療センター	テコンドー	S指定
6	玉津 徹也	日本オラクル株式会社	卓球	A指定
7	望月 貴裕	中部電力ミライズ株式会社	射撃	A指定

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針

令和6年度当初予算【12,600千円】

1 目的

国民スポーツ大会や全日本選手権及び日本リーグ等で、三重県を代表するチームとして活躍が期待できるチームを指定し、成年選手の重点的な競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会の正式競技に取り組んでいる大学運動部、企業・クラブチーム。

3 実施内容

下記に示す指定基準をもとに判断し、国民スポーツ大会や全日本選手権及び日本リーグ等における競技成績の見込等に鑑み、強化費を配分して競技団体が実施する強化活動を支援する。

(1) 指定期間

指定については令和6年4月から令和7年3月までの期間とする。

(2) 指定基準

競技団体が強化の中心として位置づけ、国民スポーツ大会や全日本選手権及び日本リーグ等において三重県を代表するチームとして活躍が期待できるチームのうち、次の①及び②に該当するチーム。

ただし、競技団体がチームそのものとなる場合を除く。

- ① 団体競技は、国民スポーツ大会に出場するチーム構成において、候補選手が複数名在籍しているチーム。
- ② 個人競技は、国民スポーツ大会で入賞が見込める候補選手が複数名在籍しているチーム。

(3) 指定方法

強化指定チームについては、三重県競技力向上対策本部が所属競技団体と協議を行ったうえで、三重県競技力向上対策委員会において決定する。

(4) 補助対象

全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|----|----------------------|
| 4月 | 強化指定運動部、企業・クラブチームの決定 |
| 5月 | 指定証交付 |
| 随時 | 強化活動支援 |

令和6年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る強化指定チーム

	チーム名	種別	競技名（種目名）
1	デンソー女子陸上長距離部	女子	陸上競技
2	伊賀FCくノ一三重	女子	サッカー
3	三重クラブ	男子	ホッケー
4	三重クラブ	女子	ホッケー
5	ヴィアティン三重	男子	バレーボール
6	ヴィアティン三重	女子	バレーボール
7	相好体操クラブ	男女	体操（競技）
8	相好トランポリンクラブ	男女	体操（トランポリン）
9	ヴィアティン三重	男子	バスケットボール
10	三重バイオレットアイリス	女子	ハンドボール
11	ヨシザワ	男子	ソフトテニス
12	エクセディ女子卓球部	女子	卓球
13	北勢ライディングファーム	男女	馬術
14	三重ヴェルデウィン	男子	ソフトボール
15	株式会社安永弓道部	男子	弓道
16	三重県警察	男女	ライフル射撃
17	三重県警察	男子	剣道
18	PEARLS	女子	ラグビーフットボール

18チーム

トップアスリート就職支援事業 実施方針

令和6年度当初予算【14,332千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）に対し、県内企業等への就職支援を行い、社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備することで、国民スポーツ大会を初めとする全国大会等で安定した競技力を確保することを目的とする。

2 対象

(1) 対象選手

国民スポーツ大会の正式競技に取り組んでいる選手またはその指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として同大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民スポーツ大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技・団体競技ともに8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※ 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※ 成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

(2) 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリート等を採用する意思のある企業等とする。

3 実施内容

- (1) 就職支援を行ったトップアスリート等が社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備するために、採用企業と調整を行い、課題改善に努める。
- (2) 令和4年度以降も安定した競技力を確保するために、成年選手強化に係る取組を県内企業に説明し、トップアスリート等の採用依頼を行う。
- (3) 求人・求職に係る情報の管理を行う。
- (4) 競技団体から推薦のあったトップアスリート等に対し、書類審査を行う。
- (5) 社業と競技活動の両立が図られるよう、トップアスリート等に対し、面談を行う。
- (6) 企業及びトップアスリート等に有益なマッチングが図られるよう、調整を行う。
- (7) 企業及びトップアスリート等に推薦者・推薦企業の打診を行う。
- (8) 採用選考の調整を行う。
- (9) トップアスリート等が培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

4 年間計画

4月以降、随時、実施内容の取組を進めることとする。

スポーツ指導員配置事業 実施方針

令和6年度当初予算【62,657千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣することで、本県選手の競技力向上を図ること、また、トップアスリート等として成年種別の競技得点を獲得することを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会の正式競技に取り組んでいるトップアスリート等で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民スポーツ大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民スポーツ大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技は3位以上、団体競技は8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※ 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※ 選手としての成績については、高等学校卒業後のものとする。但し、高校卒業時に採用する場合はこの限りではない。

3 実施内容

- (1) スポーツ指導員の採用については、三重県競技力向上対策本部と公益財団法人三重県スポーツ協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 公益財団法人三重県スポーツ協会は、スポーツ指導員の勤務管理を行うとともに、本県選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣する。
- (3) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

- | | |
|-----|----------------------|
| 4月 | 協定書の締結 |
| 4月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣 |

チームみえトップ指導者養成事業 実施方針

令和6年度当初予算【24,810千円】

1 目的

- (1) 今後の国民スポーツ大会等において安定的な競技力を確保するために、各年齢カテゴリー（以下、「各カテゴリー」とする。）におけるトップ指導者の養成を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図る。
- (2) 各カテゴリーを超えた指導者が幅広く交流することで、チームみえとしての一体感を醸成するとともに、一貫的な指導体系を構築し、日本一を目指す指導力と資質の向上を図る。
- (3) 日本を代表するトップアスリートを輩出することで三重県のスポーツ推進を図る。

2 対象

各競技団体からスタートアップコース（4期生）受講生として推薦のあった者について、三重県競技力向上対策委員会が選考・決定する。

なお、決定にあたっては、以下の条件を満たす者とする。

- (1) 国民スポーツ大会の正式競技の指導者で、令和6年4月から令和8年3月まで、2年間継続受講が可能な者。
- (2) 各競技団体から各カテゴリーの中心的な役割を担う指導者として位置付けられた者のうち、以下の①～③のいずれかに当てはまる者。
 - ① 三重県の競技力の向上において、各カテゴリーの県代表または県選抜チームの中心的な役割を担う主たる指導者。
 - ② 優れた競技実績を有するトップアスリートで競技生活の終了に伴い、今後、三重県の競技力の向上において、指導者として活躍が見込まれる者。
 - ③ 各強化指定チームの主たる指導者で、各競技団体の競技力の向上において中心的役割を担う者。

3 実施内容

(1) 指導者養成講座

スタートアップコース（4期生）

- ・今後の三重県スポーツの未来へ向けた多角的なテーマでの記念講演。
- ・国内トップクラスの講師を招聘した研修（コーチング論、医・科学サポート、情報戦略、県外研修等）。
- ・令和4年度から5年度にかけて本事業で養成したコーチデベロッパー（以

下、コーチデベロッパー)を招聘した研修(コーチング論、医・科学サポート、情報戦略等)。

- ・各種全国大会およびジュニア育成等に向けた各競技団体における指導体制等の分析や強化戦略の課題に対する指導助言(カンファレンス)。
- ・県内外指導者の運動観察・実践指導。
- ・ICTでのディスカッション及び有識者、コーチデベロッパーによる指導助言、相談窓口。

(2) マルチサポートシステム

- ・指導体制上の課題解決に向けた様々なサポートの実施と検証。

(3) コーチングコミュニティ

- ・チームみえの一体感を継続するため、コーチデベロッパーを中心に最新情報等の相互発信と共有。
- ・マガジンの発行及びSNSを活用し、本事業ディレクターから最新情報提供及び受講生の現況報告や取組の情報共有。

4 年間計画

4月	プレミーティング(オリエンテーション)
6月	指導者養成講座Ⅰ
12月	指導者養成講座Ⅱ
3月	指導者養成講座Ⅲ
通年	県外研修、県内研修、ホームワークによるカンファレンス

令和6年度チームみえトップ指導者養成事業
 スタートアップコース受講生／4期生

番号	競技	所属	名前
1	陸上競技	県立伊勢高等学校	中村 隆代
2	水泳（競泳）	大紀町役場	中井 克樹
3	水泳（水球）	県立飯野高等学校	中川 恭輔
4	サッカー	四日市市立三滝中学校	西山 芽衣
5	テニス	県立四日市商業高等学校	田根 諭
6	ローイング	県立昴学園高等学校	春名 祐希
7	ホッケー	社会福祉法人名張育成園	森 優里香
8	ボクシング	県立久居農林高等高校	山本 拳
9	バレーボール（ビッチバレーボール）	IX ホールディングス株式会社	浮田 美里
10	体操（競技）	暁中学校・高等学校	石原 大
11	体操（トランポリン）	相好トランポリンクラブ	植田 太郎
12	体操（新体操）	高田高等学校	堀 孝輔
13	レスリング	県立四日市四郷高等学校	森 保弘
14	ソフトテニス	松阪市立東部中学校	橋本 旭陽
15	卓球	NX キャッシュ・ロジスティクス株式会社	薄井 智彦
16	馬術	鈴鹿市馬術協会	坂野 誠
17	ソフトボール	鈴鹿高等学校	濱田 早紀
18	柔道	県立名張高等学校	莊司 和大
19	バドミントン	皇學館高等学校	槇野 貴行
20	弓道	県立菟野高等学校	藤原 瑞穂
21	ラグビーフットボール	鈴鹿高等学校	三輪 達哉
22	カヌー（スラローム）（ワイルドウォーター）	四日市市役所	森田 涼太
23	なぎなた	株式会社三幸	杉野 圭
24	トライアスロン	株式会社朝日金属	大山 陽一郎

競技用具等整備事業 実施方針

令和6年度当初予算【1,000千円】

1 目的

国民スポーツ大会や全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を整備することを目的とする。

2 対象

(1) 整備対象競技

本事業により、競技用具等を整備する競技は、国民スポーツ大会における正式競技とする。

(2) 整備対象競技用具等

- ①競技力向上に必要と認められるもの。
- ②選手が大会等で直接的に使用するもの。
- ③高額等の理由により、個人や競技団体に整備することが困難なもの。
- ④既存の競技用具等が、規格外、老朽化、性能不足等の理由により、改めて整備する必要があるもの。

3 実施内容

- (1) 前出要件を満たす競技用具等の整備を希望する競技団体は県に申請を行う。
- (2) 県は競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、選定委員会において適当と認められた競技用具等を購入する。
- (3) 競技団体に対して県が購入した競技用具等を貸し付ける。
- (4) 貸し付けした競技用具等について、競技団体は責任を持って管理するとともに、引渡し、維持、修繕及び返納に要する費用を原則負担する。

令和6年度暫定予算(専決処分)

(令和6年4月1日～6月27日)

1 収入

(単位:千円)

科目	令和6年度 当初予算案	暫定予算	備考
負担金	310,134	163,650	三重県負担金
計	310,134	163,650	

2 支出

(単位:千円)

科目	令和6年度 当初予算案	暫定予算	備考	
事業費	チームみえジュニア育成事業	37,257	13,339	4月1日付けで県スポーツ協会と委託契約
	高等学校運動部強化指定事業	13,154	12,589	4月1日付けで県高等学校体育連盟と委託契約
	チームみえスーパージュニア強化指定事業	6,000	0	6月27日までの支出見込額
	三重県アスリートタレント発掘・育成事業	12,841	26	6月27日までの教育・育成プログラム経費等
	トップアスリート応援事業	11,000	1,892	6月27日までの給付見込額
	チームみえ国スポ選手強化事業	177,000	132,042	4月1日付けで県スポーツ協会と委託契約
	パラリンピック等選手強化指定事業	8,700	0	6月27日までの支出見込額
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	12,600	2,432	6月27日までの支出見込額
	オリンピック等選手強化指定事業	2,700	0	6月27日までの支出見込額
	チームみえトップ指導者養成事業	24,810	348	研修等に係る経費 6月27日までのマルチサポート執行見込額
会議費	4,054	982	対策本部会議費等に要する経費	
事務局費	18	0		
計	310,134	163,650		

審 議 事 項

そ の 他
(情報共有事項 他)

三重県競技力向上対策本部の継続と今後の競技力向上に係る取組方針

競技力向上対策本部の存続
 (目標設定、課題分析、取組評価＋指導・助言)
 ～Go Forward チームみえ！～
 「これまでに積み重ねたノウハウを引き継ぎ目標に向かって前へ進める」

三重とわか国体後の取組目標

団体競技

県を代表するシンボリックチームの確立
 クラブチーム・強化指定チームの自立
 国内トップリーグへの定着
 県を代表するチームへの成熟による県民との一体感の醸成

「ブロック大会突破率30%、2位通過！」

国民体育大会での天皇杯順位の維持
 目標：天皇杯順位10位台前半
 全国での競技力を測る指標(天皇杯トップ10常連県に続く位置の確保)
 次期三重国体を見据えた取組の継続

個人競技

国際大会で活躍するアスリートの養成
 第2の山田優選手のようなトップアスリートの輩出により、スポーツ
 の力で県民との一体感の醸成(バリオハラ・アジア大会)



※次期国体開催に向けた競技力の維持向上

※ 三重県競技力向上対策本部第10回本部会議 (令和4年6月20日)

抜 粋

第3次三重県スポーツ推進計画

令和5（2023）年度～令和8（2026）年度

スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ

～スポーツを「楽しむ」 三重の環^わ～

令和5（2023）年3月

三重県

第4章 計画の基本方針

1 計画のめざす姿

スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ ～スポーツを「楽しむ」三重の環^わ～

昨今、人口減少・少子高齢化の進展や新型コロナウイルス感染症の拡大など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しており、国際的に見てもSDGsへの貢献など、持続可能な社会や共生社会の実現に向け、スポーツの持つ力を活用した取組が求められています。

また、県民の皆さんの健康志向は高まっており、幼少期から高齢期まで一生涯スポーツにふれ親しむ機会が求められていること、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがともにスポーツに取り組むことが求められていることから、地域の絆づくりにおいて、一体感の醸成などスポーツの持つ力に期待が寄せられています。

このような中、すべての県民の皆さんがスポーツの価値を広く享受し、一人ひとりがふるさと三重に愛着と誇りを持ち、豊かで充実した生活を送ることができる社会づくりが必要です。「第3次三重県スポーツ推進計画」では、県民の皆さんがスポーツを楽しみ、スポーツとともに人生を歩みつつ、スポーツを通じて「人と人」「人と地域」「地域と地域」の絆を深める取組を進めます。

2 推進施策の方向性

【推進施策1】

スポーツにふれ親しむ環境づくり ～いつまでも「楽しむ」～

県民の皆さんが、スポーツによる「楽しさ」を享受できるよう、生涯にわたって運動・スポーツにふれ親しむ環境づくりを進めます。スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、社会情勢や個々人の置かれた状況に応じた取組を進めます。また、障がい者スポーツの裾野の拡大を進め、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツに参加できる環境づくりを進めます。

【推進施策2】

スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～

スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。

【推進施策3】

スポーツを通じた地域活性化と共生社会の実現 ～誰もが「楽しむ」～

スポーツの持つ力で人や地域の交流を促すとともに、県営スポーツ施設の計画的な整備を進め、地域の活性化につなげていきます。また、障がいの有無、国籍・文化的背景や性的指向・性自認などにかかわらず、多様な主体が「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」の視点から、安心してスポーツを楽しめる環境づくりを進めることで、共生社会の実現につなげていきます。

【推進施策と新たな3つの視点の関係】

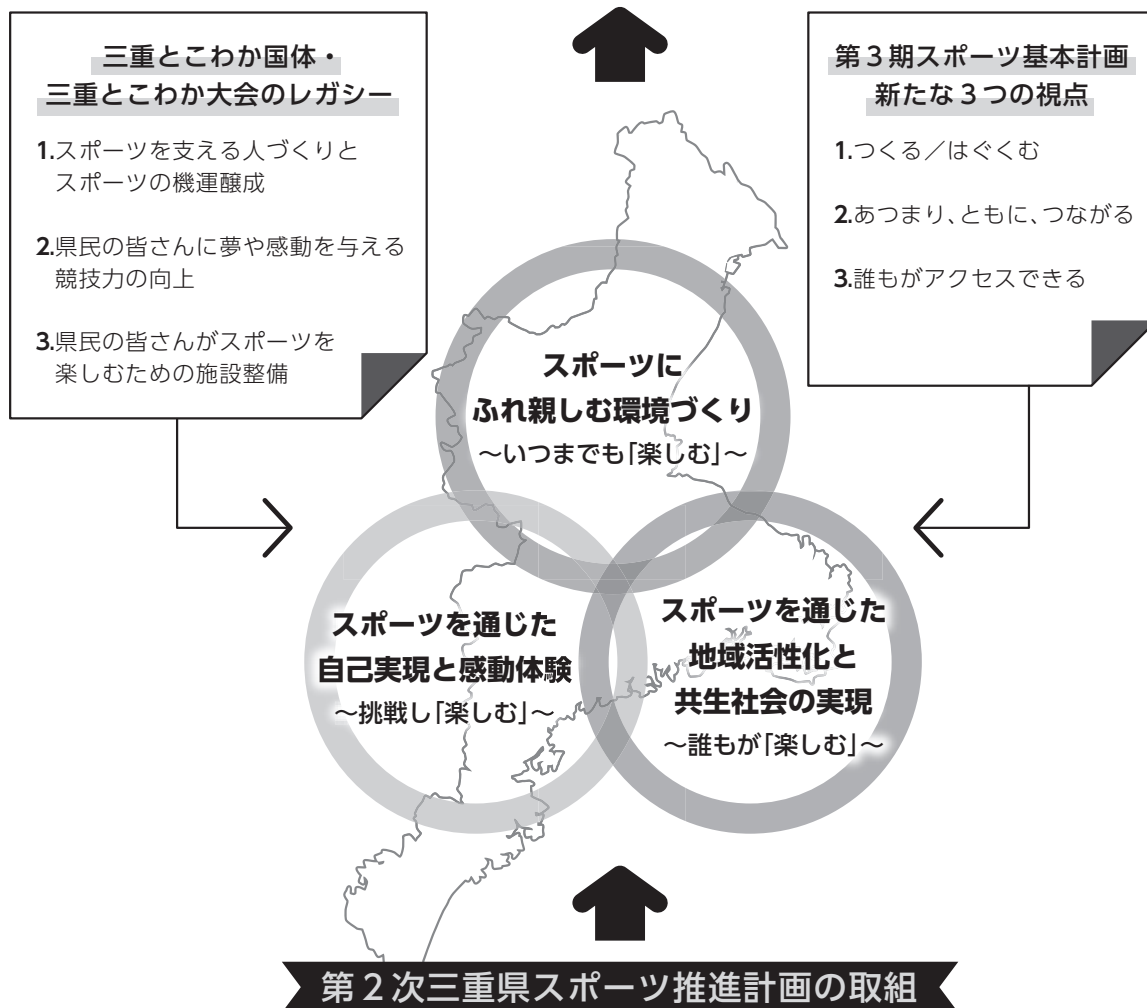
推進施策	取組名	新たな3つの視点		
		つくる／はぐくむ	あつまり、ともに、つながる	誰もがアクセスできる
1 スポーツにふれ親しむ環境づくり ～いつまでも「楽しむ」～	(1)子どもたちが運動・スポーツに親しむための取組の拡充	○		
	(2)これからの学校スポーツと地域連携・地域移行	○		○
	(3)生涯を通じたスポーツ機会の充実と健康づくりの推進	○		
	(4)障がい者スポーツの裾野の拡大		○	
	(5)地域スポーツの担い手の養成・資質向上	○		○
2 スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～	(1)未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成			○
	(2)選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上	○		○
	(3)三重県を代表するチームの強化支援		○	○
	(4)県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援			○
	(5)国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援			○
3 スポーツを通じた地域活性化と共生社会の実現 ～誰もが「楽しむ」～	(1)三重とこわか国体・三重とこわか大会のレガシー継承・発展	○	○	○
	(2)安全・快適なスポーツ環境の提供		○	○
	(3)スポーツを通じた交流やスポーツツーリズムの促進		○	○
	(4)スポーツを通じた共生社会の実現	○	○	○

※表中の「○」印は、各推進施策の取組において特に関わりが深い「新たな3つの視点」を示しています。

【推進施策の取組イメージ】

めざす姿

スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ
～ スポーツを「楽しむ」三重の環 ～



【推進施策2】**スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～**

競技スポーツは、人間の可能性の極限を追求し挑戦することで、自己実現や一人ひとりの豊かな人生の形成に寄与します。

目標を持ってスポーツに取り組む（「する」）ことは、自立心や精神の涵養につながり、努力を重ねて勝つ「喜び」やスポーツの「楽しさ」を得ることができます。また、勝敗にかかわらず相手を称える気持ちを養うことは、心身の健やかな成長にも寄与するものです。さらに、「みる」「支える」人びとに感動を与え、スポーツを「楽しむ」といった側面があります。

本県では、平成25（2013）年に三重県競技力向上対策本部を設置し、令和3（2021）年に開催予定であった三重とこわか国体（第76回国民体育大会）をはじめ、国内外の数々の大会で活躍できる三重県選手・チームの育成・強化に取り組んできました。

令和3（2021）年夏に開催された東京2020オリンピック競技大会には過去最多19名の三重県ゆかりの選手が出場し、金メダリストを輩出しました。また、令和4（2022）年のいちご一会とちぎ国体（第77回国民体育大会）では男女総合成績12位となり、昭和50（1975）年開催の三重国体の優勝、さらにその翌年の9位に次ぐ3番目の好成績を収めました。




『推進施策2』では、スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。

- ・選手の将来を見据えた長期的な視点から、次世代を担うジュニアアスリートの発掘・育成や優れた指導者の養成・資質向上に取り組めます。
- ・三重とこわか国体に向けて培った競技力向上のノウハウを生かし、三重県ゆかりのトップアスリート、パラアスリート、チームの強化活動を支援します。

<取組内容>

- (1) 未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成
- (2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上
- (3) 三重県を代表するチームの強化支援
- (4) 県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援
- (5) 国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【SDGsへの貢献】

	目標	スポーツの貢献
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>小中学校・高等学校・高等教育機関において、公平で質の高い体育・スポーツ教育を受けることは、一生涯の健全なライフスタイルの確立につながります</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>	<p>女性のスポーツ参画に取り組むことは、ジェンダー平等の実現に寄与します</p>
 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>国内および国家間の不平等を是正する</p>	<p>スポーツは世界共通の文化であり、国内外の地域間格差など不平等の解消に役立ちます</p>

(1) 未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成

【現状・課題】

- ・将来を担うジュニア選手（小中学生）については、競技人口の少ない競技の選手の発掘・育成、ジュニアクラブ・高等学校運動部の強化指定による拠点化、選手の将来を見据えた一貫指導体制の構築など、長期的な視点での支援が必要です。

【取組の方向性】

- ・競技人口の少ない競技については、将来、国民体育大会やオリンピック等で活躍が期待される優れた資質を有するジュニア選手の発掘・育成を行います。
- ・ジュニアクラブ・高等学校運動部を指定し、国民体育大会等で少年種別の中心となる選手の育成・強化を支援します。
- ・全国大会等で活躍が期待されるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定し、強化活動を支援します。
- ・選手の将来を見据えた長期的な観点から指導者を育成し、少年期から成年期までの一貫した指導体制を構築します。

【具体的な取組内容】

- ・小中学生を対象とするスポーツ体験会などを通じて、優れた資質を有し、国民体育大会やオリンピック等で中心となる次世代の選手を発掘します。
- ・国民体育大会等で活躍が期待されるジュニア選手やジュニアクラブ等を指定し、強化活動を支援します。
- ・国民体育大会等で活躍するトップアスリートの育成をめざし、育成・強化の中心となる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援します。
- ・少年期から成年期までの幅広い年齢層に応じて適切な指導ができる優れた指導者を養成し、一貫した指導体制を構築します。



タレント発掘プロジェクト
(女子ラグビー)



国民体育大会で活躍するジュニア選手
(ウエイトリフティング)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	70件	165件	国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・ジュニア・少年選手から成年選手まで幅広い年齢層における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・幅広い年齢層において安定した競技力を確保する観点から、165件と設定しました。

(2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上

【現状・課題】

- ・三重とこわか国体ののちも安定した競技力を確保するため、ジュニア選手から成年選手まで、幅広い年齢層に応じた指導ができる指導者を養成するとともに、一貫的な指導体制の構築を図っています。さらに、指導者を育成する指導者「コーチデベロッパー」の養成に取り組んでいます。
- ・将来を見据え、長期的な視点で選手の競技力を向上させるには、幅広い年齢層に応じた適切な指導ができる優れた指導者の養成・資質向上・拡充を図る必要があります。
- ・少年期から成年期までの一貫した指導体制づくりが不可欠です。

【取組の方向性】

- ・県内指導者の資質向上を図るための研修を行うことで、指導者の拡充、一貫的な指導体制の構築を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・日本一をめざす指導力の獲得と資質向上を図るため、チームみえ・コーチアカデミーセンター事業において国内トップクラスの講師を招へいし、コーチング論や医・科学サポートなど科学的根拠に基づいた指導法や、指導者のスポーツ・インテグリティの確保などに関する研修を行います。
- ・競技力向上の中心的役割を担い、今後の本県の指導者を育成する者としてコーチデベロッパーを養成し、優れた指導者の拡充を図ります。
- ・指導者が各カテゴリーを超えて交流することでチームみえの一体感を醸成し、一貫的な指導体制を構築します。



チームみえ・コーチアカデミー
(3期生・スタートアップミーティング)



チームみえ・コーチアカデミー
(アカデミーⅠ・Ⅱ・Ⅲ)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
新たな指導者の拡充	39人	80人	「チームみえ・コーチアカデミーセンター事業」を受講し、新たに指導者となった人数（累計）

<選定理由>

- ・チームみえ・コーチアカデミーセンター事業の取組による指導者養成の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・安定した競技力を確保する観点から、今後の受講者（養成者）数を見込み、設定しました。

(3) 三重県を代表するチームの強化支援

【現状・課題】

- ・成年選手の重点的な競技力向上を図るため、本県を代表するチームとして全国での活躍が期待できるチームを指定し、支援しています。
- ・競技団体やクラブチームによっては、運営基盤が弱く、組織の持続的な運営に課題を抱えている場合があります。組織力や経営力を高め、体制強化を図るため、運営に課題を抱える競技団体やクラブチームを支援しています。

【取組の方向性】

- ・全国での活躍が期待できるチームを指定し強化活動を支援することで、本県選手の競技力向上を図ります。
- ・持続的な運営が可能となるよう、専門性を有するアドバイザーを派遣することで、競技団体やクラブチームの体制強化を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業により、国民体育大会等での活躍が期待される本県を代表するチームを指定し、強化活動に要する経費を支援することで、重点的に成年選手の競技力向上を図ります。
- ・成年種別の中心として強化指定したチームのうち、運営や経営に関する課題を抱える競技団体やクラブチームに対し、専門的な知識やノウハウを持ったアドバイザーを派遣し、体制の強化を図ります。

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	- (中止)	105件	国民体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・成年選手における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・成年選手において安定した競技力を確保する観点から、105件と設定しました。

(4) 県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援

【現状・課題】

- ・選手やチーム、競技団体が行う強化活動への支援や、企業関係団体等と連携したトップアスリート・指導者の県内定着などに取り組んでいます。
- ・これまで積み重ねてきた競技力向上のノウハウを生かした選手・チームへの支援が必要です。
- ・三重とこわか国体が中止となったものの、引き続き、国民体育大会での男女総合成績10位台前半を維持するため、選手・チームの安定的な競技力の確保が必要です。

【取組の方向性】

- ・選手・チームの課題を把握し、実力を引き上げられるよう、競技団体や本県を代表するチーム等の強化活動を支援します。
- ・選手が大会で実力を発揮できるよう、医・科学の専門スタッフを競技団体等に配置するなどの支援を行います。
- ・女性アスリート特有の諸課題に関する研修を実施し、知識習得・意識向上を図ります。
- ・企業関係団体等と連携した就職支援により、トップアスリート・指導者の県内定着を図ります。

【具体的な取組内容】

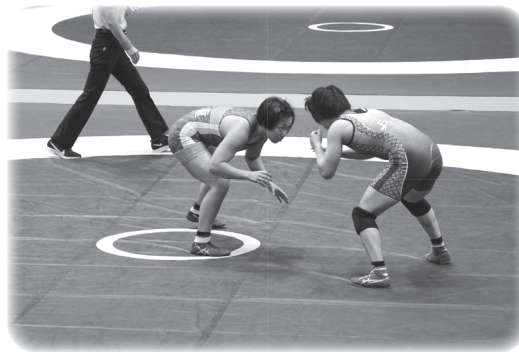
- ・国民体育大会で活躍が期待される代表選手（チームみえ）やオリンピック等の国際大会で活躍が期待される選手が行う強化活動を支援するとともに、選手が実力どおりのパフォーマンスを発揮できるよう医・科学の専門スタッフを派遣するなどの支援を行います。
- ・スポーツ・インテグリティの確保に向け、関係団体と連携し、ドーピングの禁止やハラスメントの防止などの注意喚起を図ります。
- ・女性アスリートが継続して競技に取り組むことができるよう、研修を通じて女性特有の諸課題に関する知識の習得や意識向上を図ります。
- ・安定した競技力を維持できるよう、全国大会や国際大会で活躍するトップアスリートや指導者に対し、県内企業等と連携して就職支援を行い、県内への定着を図ります。



国民体育大会で活躍する三重県選手
(フェンシング)



国民体育大会で活躍する三重県選手
(トライアスロン)



国民体育大会で活躍する三重県選手
(レスリング)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
国民体育大会の 男女総合成績	- (中止)	10位台前半	国民体育大会における正式競技の参加点（ブロック大会を含む）と冬季大会及び本大会の競技得点の合計による都道府県ごとの男女総合順位

<選定理由>

- ・三重とわか国体ののちも安定的な競技力を確保することをめざしており、各県の競技力を示す指標であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・三重とわか国体ののちも安定した競技力を確保する観点から、（大都市圏などの常連県に次ぐ位置として）10位台前半と設定しました。

(5) 国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【現状・課題】

- ・競技力向上を図るため、パラリンピック等の国際大会や全国大会で活躍が期待される一定の競技力を有する選手を指定し、強化活動を支援しています。
- ・競技によっては、パラスポーツを専門とするコーチや、同じレベルの練習パートナーが県内に不足しており、活動拠点を県外や海外に求めざるを得ない場合があります。
- ・競技用具の機能や調整具合が勝敗を分けることがあり、個々の競技の特性をふまえたきめ細かな支援が必要です。

【取組の方向性】

- ・一定の競技力を有する選手に対し、強化活動の支援を行います。
- ・選手に応じたきめ細かな支援を行うため、選手一人ひとりの状況把握に努め、求められる支援のためのノウハウや経験を蓄積します。

【具体的な取組内容】

- ・パラリンピック等の国際大会や全国大会での活躍をめざして強化活動に取り組む本県選手のうち、国際大会や全国大会で入賞するなど一定の実績（競技力）を有し、パラリンピック等での活躍が期待される選手を指定し、遠征費や大会参加料、競技用具の購入、医・科学スタッフの派遣など、強化活動を支援します。
- ・強化支援による成果や選手それぞれが求める支援について、選手に聴取りを行い、さらなる支援の充実を図ります。



日本選手権で活躍する三重県選手
(陸上競技)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
パラアスリートの 全国大会の入賞数	35件	41件	ジャパンパラ競技大会、日本選手権に おける、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・パラアスリートにおける本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・東京2020パラリンピック競技大会及び三重とこわか大会に向け高まった、県内選手の競技力を維持・向上させるため、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度まで(令和2(2020)年度を除く)の入賞数実績の平均値等を参考に、令和8(2026)年度の目標値を41件と設定しました。

(そ の 他)

